

小学校第4学年国語科学習指導案

指導者
指導教諭

日時 令和6年10月1日(火)第4校時

場所 4年1組教室

対象 第4学年1組(28名)

1. 単元名 「ごんぎつね」

2. 単元目標

登場人物の気持ちの変化や性格、情景などについて場面の移り変わりに注意し、叙述を基に想像しながら読むことができるようにする。また、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つことができるようにする。

3. 単元設定の理由

(1)教材観

本教材は、いたずら好きなひとりぼっちの小ぎつね「ごん」と、母を亡くしひとりで暮らす「兵十」が登場する物語である。「ごん」によるいたずらのせいですれ違いが生まれ、「ごん」が反省の意を込めてこっそり償いをするものの心が通じ合ったのは、「兵十」に銃で撃たれた後である。なかなか通じ合えない「ごん」と「兵十」の心のすれ違いが、もどかしさや悲しさを感じさせる。また自分のいたずらのせいで「兵十」の母を無念な状態で亡くならせてしまったと責任を感じる「ごん」がひたむきに償いを続ける姿から、「ごん」の憎めない性格を表現している。

本文章は、語り手が登場し、伝聞という形をとって6つの場面で構成されている。「ごん」の行動が時系列を追って描かれているため、場面が進むごとに変化する「ごん」の心情の変化が捉えやすくなっている。また、文章内には「ごん」の心の声が多く用いられているため、そこからも「ごん」の心情を想像することができる。文章をじっくりと読むことを通して、「ごん」や「兵十」の気持ちなどを想像し、得た感想を人に伝えられるようつなげていきたい。そして、一人一人多種多様な感じ方があることに気付けるようにしたい。

(2)児童観

本学級の児童は、意見を発表する場面でも多くの児童から手が挙がり授業に積極的に参加している様子が見られる。手の挙がる児童にやや偏りはあるものの、ほとんどの児童が主体的に自分の意見を言葉に起こすことができている。また、文章を読んでいくにあたっ

て、文章からどんな出来事が起こったか、場面の変化を読み取ることができ、登場人物の背景や気持ちを考え、想像することも好んで積極的に取り組む児童が多い。その力を生かして本単元も気持ちの変化や情景の移り変わりに注目しながら読んでいきたい。

一方で叙述をもとに根拠をもって、登場人物の気持ちを考えるというのはまだ難しい児童も多い。友だちとの交流を取り入れ、どこを読んでその部分からどんな気持ちを読み取れるのかという話し合いをした上で、友だちの意見を参考にしながら自分の考えを形成していけるよう促したい。

(3)指導観

場面の移り変わりに注目し、登場人物の様子や行動、性格、気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像し読むことができるようにしたい。また、自分の考えとその根拠を言葉にして、相手に分かりやすく伝えたり、お互いの考えの共通点や相違点を意識したりしながら共有することができるようにしたい。さらに、同じ叙述に着目していても、そこから想像する登場人物の気持ちは児童によって違うことに気づかせたい。お互いに思いや考えを共有することで、更に物語に対する理解を深め、様々な解釈のあり方に興味を持つことができるように進める。そして、自分なりの感想を書く過程を大切にし、共有する際にはどこの叙述がもととなっているのかの違いも理解し合えるようにしたい。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。	・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。	・進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想をもち、学習の見通しをもって、物語の結末についての感想を書こうとしている。

5. 指導計画(全11時間)

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価とその方法
1	・「ごんぎつね」の読み聞かせを聞き、物語の大まかな内容をつかむ。	・物語が6つの章で構成され、中心人物がごんと兵十であることをつかませる。	【知】文章全体の構成、大まかな内容を理解している。(発言)

2	・ごんや兵十の行動に関する語句を調べ、文章全体を捉える。	・ごんや兵十の行動に関する語句をピックアップして、ワークシートを作り調べさせる。追加として、児童自身が調べたい語句を調べるようにする。	【知】語句の意味を正しく調べている。(ワークシート) 【主】班の中で自分の役割を担い、積極的に意味調べに取り組んでいる。(子どもの様子)
3	・初発の感想を書く。 ・「ごん」がどんなきつねなのか考える。	・物語の概要をつかんだうえで、現時点での感想を自由に書くように指導する。授業が進んでいく中で、新たに感想が生まれれば付け足しても良いことを伝える。	【思】具体的な場面や人物の行動、様子を根拠として、自分の感想をまとめている。(ワークシート)
4	・「1」の場面について、ごんが兵十にしたことと、そのときのごんの気持ちをまとめる。	・場面ごとに「ごんが兵十にしたこと」と「そのときのごんの気持ち」を考え、書き込めるワークシートを用意しておく。 (「1」～「6」一貫して同じ構成のワークシートを用意する) ・ごんの行動や情景の描写から、ごんの境遇や性格をつかみ、ごんの気持ちを想像できるようにする。 ・ごんの行動が分かるところには、線を引き読み進めるよう指導する。(「1」～「6」を通して同じ方法で読み進めていく。)	【知】「ごん」の行動を、叙述を基にとらえている。(発言、ワークシート) 【思】「ごん」の行動に伴う「ごん」の気持ちを想像している。(発言、ワークシート)
5	・「2」、「3」の場面について、ごんが兵十にしたことと、そのときのごんの気持ちをまとめる。	・「1」の場面とのごんの気持ちの変化に注目するよう促す。 ・ごんの行動から、「2」場面では後悔、「3」場面では償いの気持ちに気付かせる。	【知】「ごん」の行動を、叙述を基にとらえている。(発言、ワークシート) 【思】「ごん」の行動に伴う「ごん」の気持ちを想像し、さらに「1」場面からの気持ちの変化を考えてい

			る。(発言、ワークシート)
6	・「4」、「5」の場面について、ごんの行動や気持ちの変化をまとめる。	・これまでの場面からのごんの気持ちの変化に注目するよう促す。 ・自分がくりやまつたけを持ってきていることに兵十が気づいてくれないもどかしい気持ちに気付かせる。	【知】「ごん」の行動を、叙述を基にとらえている。(発言、ワークシート) 【思】「ごん」の行動に伴う「ごん」の気持ちを想像し、これまでの場面からの「ごん」の気持ちの移り変わりを考えている。(発言、ワークシート)
7 (本時)	・「6」の場面について、兵十が知ったことと、その時の兵十の気持ちをまとめる。	・「6」場面のみ「兵十」視点で行動やセリフが書かれていることに注目させる。 ・「6」場面の中での兵十の気持ちの推移を分かりやすくするようワークシートをまとめる。	【知】兵十の行動を、叙述を基に捉えている。(発言、ワークシート) 【思】兵十の心情の変化を想像し、自分なりの考えをまとめている。(発言、ワークシート)
8	・情景や場面の様子が分かる表現を見つけ、そこからごんの気持ちを想像する。	・「情景」と、今まで考えてきた「行動や気持ち」との違いを理解できるよう説明する。 ・「情景」から気持ちを想像することが難しい児童がいれば、友達との交流から気づきを促す。	【知】「情景」を正しく捉え、文章から情景が書かれた文を抜き出している。(発言、ワークシート) 【思】情景や場面の様子を表す表現を確認し、「ごん」の気持ちを想像している。(発言、ワークシート) 【主】同じ情景を表す表現でも、友達と考え方が違うことに気づいている。(グループワー

			ク)
9	・場面ごとのごんと兵十の思いや考えの変化について考え、まとめる。	・「ごん」「兵十」それぞれの気持ちに焦点を当ててみていくことを理解させる。 ・「ごん」と「兵十」の心の距離の推移を考えさせる。	【思】登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(発言、ワークシート) 【主】友達の考えを聞いて、一人一人の感じ方の違いを見つけている。(グループワーク)
10	・詳しく読んで分かったことなどを基に、もう一度感想をまとめる。	・初発の感想を書いてから、行動や気持ち、情景に注目して読んできたことで新たに生まれた感想などを書くよう伝える。 ・叙述を基に、登場人物の気持ちの変化に着目するよう伝える。	【知】語彙を豊かにし、感想を書いている。(ワークシート) 【思】文章を読んで理解したことに基づいて、自分なりの感想や考えを持っている。(ワークシート) 【主】進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想を持ち、物語を詳しく読んできて得た感想を書こうとしている。(児童の様子、ワークシート)
11	・グループで感想を読み合い、意見を交流して新たに考えたことを書き加える。	・自分の感想に書き加えるのが難しい児童には、友達の感想を聞いて気付いたことを新たにまとめるよう伝える。 ・感想を伝え合う際にはお互いコメントしあうよう促す。	【思】友達と感想を読み合い、新たに考えたことや思ったことを書き加えるなどして、自分の感想を見直している。(グループワーク、ワークシート)

6. 本時

(1)本時の目標

第6場面を読んで、「兵十」の行動について叙述を基に捉え、そのときの「兵十」の気持ちを想像することができる。

(2)本時の評価規準

兵十の行動を、叙述を基に捉えている。【知・技】

兵十の心情の変化を想像し、自分なりの考えをまとめている。【思・判・表】

(3)本時の具体的な子どもの姿(判断の基準)

A 達成している	B 概ね達成している	C 支援を要する児童への手立て
・兵十の行動が書かれた複数の叙述に線を引き、プリントに書き起こしている。 ・兵十の行動に基づいて心情の変化を想像し、自分なりの考えをまとめている。	・兵十の行動が書かれた叙述に線を引き、プリントに書き起こしている。 ・兵十の行動に基づいて心情の変化を想像している。	・兵十の行動を探ず際に苦戦している様子が見られれば「～しました」という文章で書かれていることと、兵十が主語となっている文に注目してみるということを伝える。 ・兵十の心情を想像しにくい場合には、友だちの意見を聞き、参考にして考えるよう伝える。またグループで共有する場を設け、さまざまな考えを聞き、自分の意見に加えてもいいよう助言する。

(4)本時の展開

時間	主な学習活動	○児童の反応例	指導上の留意点
導入	①前回までの復習 ○4、5場面ではごんはどんな行動をしていましたか？ ○そのときのごんはどんな気持ちでしたか？	○「加助と兵十のあとをつけて話を聞いていた」 ○「自分が持ってきていることに気づいてくれなくて、引き合わないなと思った。」	●忘れている場合は教科書を開いて、4・5場面を確認するよう助言する。

	②めあてを確認 ・「6」の場面を読み、「兵十」が知ったことと気持ちを読み取る。		●「6」場面は「ごん」ではなく「兵十」の視点で物語が進むことに気付かせる。
展開	③「6」場面を班で音読する。 ④場面を考える。 ○「6」場面の時間はいつですか？ ○「6」場面の場所はどこですか？ ⑤教科書の中から兵十の行動に線を引き、ワークシートに書き写す。 ⑥どんな行動があったのか発表する。 ○兵十はどんなことをしていましたか？ ⑦⑥で出た行動に対する兵十の気持ちを考える。	○「その明るる日」 ○「兵十の家」 ○「物置で縄をなっていた。」 ○「顔を上げて、家に入ろうとしているごん見つけた。」 ○「ごんをドンとうった。」 ○「かけよった。」 ○「ごんに目を落とした。」 ○「火縄じゅうをばたりと取り落とした。」	●漢字の読みなどで詰まっていないか、机間指導で確認する。 ●見つけにくい児童には「～しました」の形で書かれている文に注目するように伝える。 ●「6」場面の中で兵十の気持ちがどう

	○そのときのごんの気持ちを考えましょう。 ⑧グループで兵十の気持ちについてどう考えたか交流する。 ⑨兵十の気持ちを発表する。 ○どんな気持ちを想像しましたか？	○「またいたずらしにきたな。」 ○「今度は許さないぞ。」 ○「仕留められたかな。」 ○「もしかして、くりを持ってきてくれていたのはごん？」 ○「やってしまった。」 ○「ごん、気づけなくてごめん。」	変化しているかに注目させる。 ●交流の際には、自分の意見と友達の意見の似ているところ、違うところを見つけてお互いコメントしあうよう伝える。
まとめ	⑩振り返りを記入する。 ⑪次回の予告 ○次回は景色や場面の様子に注目していきます。		●今日学んで分かったこと、感じたことや友達と交流して気付いたことなどを書くように伝える。